ーみんなで取り組み「活力」と「安心」の基盤づくりを行いますー

1　活力再編計画

（１）高齢者が生きがいを持って活躍できる仕組みづくり

■日本全国がかつて経験のしたことのない高齢化の時代を迎えます。高齢化の時代に立ち向かっていく時、まずは心身ともに健康であることが求められます。
■そのためには、高齢者が仕事や趣味、あるいはボランティア活動などを通して、いつまでも社会に参加できる仕組みが必要です。町は、高齢者の方々が持つ知恵や経験を発揮でき、身近な仕事に従事する他、サークル活動や文化・スポーツとふれあい、若者や子供たちと交流できる仕組みをつくっていきます。
■一方では、緊急医療体制の充実と、地域医療の推進を進めます。あわせて、予防医療の徹底を図ると共に、介護福祉施設の充実に力を入れるなど、お年寄りが安心して一生涯を送れる仕組みを構築していきます。

（２）移住者受け入れ施設の整備

■本町の良さを実感してもらい、将来的に本町に移住してもらう人々を増やすために、町内の遊休化施設の有効活用を進め、受け入れ施設の充実を図ります。
■移住希望者を対象に、地域ボランティアの協力のもと、農水産業などの体験プログラムを用意するなど、全町あげて受け入れ支援システムを構築します。

（３）地域農水産業支援システムの構築

■高齢化が進む地域農業を維持していくため、地域住民が一体となって支援しあう「協働」の仕組みづくりを進めます。
■この「協働」の仕組みは、町内外のボランティアや有志等の協力も取り込み、農水産業作業に関わる人的支援システムを構築をする中で、豊浦応援団づくりや、本町の移住・定住促進につながる取り組みを進めます。

（４）地域住民と都市住民との交流環境整備

■町内には後継者不足や高齢化を迎えて離農を余儀なくされた離農跡地や、現在作付けされていない遊休農地が増えていますが、先人達が苦労して作り上げた農地を無為に放置することなく、できるだけ継続利用していくことが私たちに課せられた責務です。
■私たちは遊休農地の有効活用策として、都市住民向けの体験学習農園やオーナー制農園施設などを整備し、農作業を通して住民間交流を促進していきます。

（５）交流イベント事業の推進

■今までの交流イベントの成果を基に、さらに交流を通して豊浦町を知ってもらうことが必要です。交流イベントの継続と拡大により、町の応援団が増えていくこと、そして町の特産品の全国へ向けてのブランド化などで効力を発揮していきます。そして何よりも交流事業を通して、お客様と町民が一つになって元気なまちづくりの推進を図ります。

２　産業振興計画

（１）担い手育成・確保の総合対策の推進

■高齢化が進む地域農業を維持していくため、「担い手育成・確保総合対策」は、豊浦町担い手育成総合支援協議会をはじめに地域が一体となった取り組みを推進します。
■この取り組みにより、今までの全対象農家一律の補助から担い手限定育成対策に転換した国の施策に備えます。

（２）環境保全型農・漁業の基盤づくりの推進

■豊浦町における林業の従事者数の減少は、昭和 35 年当時に比べ 60％までに衰退しています。山林部が町内全面積の 70％を占める豊浦町の特徴にあって、林業の振興は密接に関係のある海洋資源の畜養に繋がっていることを見逃す訳にはいきません。
■私たちはまさに原点に立ち返り、林業・林産業の再興のための町民が一体となった「植林活動」を通じ、環境保全型農水産業の基盤の確立と定着に向け取り組みます。

（３）産官学民連携による新たな食品加工技術の開発

■本町は、東海大学札幌キャンパスと地域交流事業を介し、大学や研究機関のほか先端技術を有する民間企業などとの交流・連携を深めながら新しい時代の、様々な可能性に挑戦します。
■同大学での、ホタテなどを活用した食品加工技術の研究や、新たな水産事業としてマグロなどの高付加価値魚種の養殖漁業の事業化に向けた基礎研究を進め、更なる水産業の創出に努めます。
■また、道内で数少ない産官学民連携の先進地として、積極的に各種学会などのセミナー開催を誘致し、豊浦町の取り組みを広く発信していきます。

（４）低温貯蔵技術を活用した農産物の高付加価値化の推進

■本町には農産物貯蔵に最適な積雪寒冷気象が備わっており、町に賦存する冷熱エネルギーを活用した共同低温貯蔵庫の導入を図っていきます。

■このことにより、新鮮な農産物の確保を実現し、地元での食品加工産業を振興させるほか、農産物の付加価値向上とともに新たな農産物市場の拡大を進めます。

（５）観光農業・観光漁業推進のための支援

■近年は効率優先の生産基盤整備や生活環境の近代化･高度化などにより、農漁村の美しい景観が損なわれてきております。

■これからは、町内の農漁村地域がゆとりと安らぎを体感する空間として、新たな「農地・水・環境保全向上」の施策に基づき、優れた景観の再生や、保全に努め、観光農業・観光漁業の推進を支援いたします。

（６）新規地場産業の創出計画

■近年豊浦町内ではエゾシカ生息数が年々増加し、近い将来、農林業被害の発生が懸念されます。

■一方では、後志管内にはオセアニア諸国からの観光客が急増していることと、エゾシカ肉需要の増加傾向を背景とし、新たな豊浦ブランド創出の可能性が期待されます。

■本町は、道内はもとより道外や国外へも輸出できる産業としての可能性を探り、観光客誘致拡大策の計画を進めます。

（７）豊浦町産品の地産地消活動の推進

■豊浦町朝市の開催などを視野に入れ、地元産の新鮮な野菜、海産物、食肉などを町民や近隣町民の人々に販売し、地元産品の利用拡大の活動を進めます。

■この活動を始めに、子供たちや一般町民の方々に地場産品の良さを知ってもらうとともに水産業や農業などへの関心を持ってもらい、地元産品の消費拡大の推進を図ります。

（８）地域内エネルギーによる「地産地消活動」の推進

■化石燃料に代わる新エネルギーとして、太陽光、風力、バイオマス、雪氷などが考えられますが、導入には経済性やエネルギー効率など高く求められるため、先に策定した新エネルギービジョンの内容を踏まえ、豊浦町内に多く賦存する地域エネルギーの導入に向けて積極的に取り組み、地域内エネルギーによる「地産地消」を推進します。

（９）畜産用飼・肥料の「地産地消活動」の推進

■本町の畜産経営を安定したものにしていくためには、国際的な価格変動に惑わされない安定した草地型酪農による、良質な飼・肥料供給システムの構築が求められます。
■これからは、草地型酪農を基軸とし、地域内で必要な飼・肥料生産システムの構築の推進を図りながら、資源の循環利用を促す畜産用飼・肥料の「地産地消」を進め、地域内における自給飼・肥料の供給割合を高めて安定した農業経営の実現に取り組みます。

３　暮らしと環境の整備計画

（１）高齢者に優しいまちづくりの推進

■人口の減少、高齢化が進む中で、住民相互の助け合いや、お年寄りや子供たちが安全で安心して暮らせるまちづくりが求められています。
■中でも、将来に渡って持続可能な福祉ならびに医療体制の構築に向け、医師や看護師そして介護ヘルパーの確保、救急時における救急搬送体制等について、広域的な連携も含め福祉と医療体制の強化を推進します。

（２）防災に強いまちづくりの推進

■ほぼ 25 年に 1 度の周期で起きる有珠山の噴火など地域固有の火山活動や、自然災害、そして犯罪と交通事故などに備え、関係機関との連携した防災訓練などにより、総合的な防災体制と危機管理体制が充実したまちづくりを進めます。

（３）みんなの顔が見えるヒューマンスケールのまちづくりの推進

■**「どこでも、誰でも、いつでも」**というユニバーサルデザインの視点に立って、すべての町の人々が様々な社会活動に参加できる、移動し易く行動を妨げない公共施設の整備･改善を進めます。
■また、高齢者や障がい者、子育て世帯も安心して快適に暮らせるように、コンバージョンの概念を入れながら空家等を有効活用するなど**「まちなか居住」**の環境整備を図ります。
■特に中心市街地にあっては、活気ある商店街の振興や役場庁舎、福祉、医療施設、子育て支援、高齢者の移動の円滑化などの施策と連携させながら、**「みんなの顔が見えるヒューマンスケールのまちづくり」**を進めます。

（４）冬でも安心して快適に暮らせるまちづくりの推進

■冬でも安心して暮らせる地域社会を構築するため、中心市街地と各集落を結ぶ道路網の確保や、気象条件に左右されない道路整備と除排雪を実施します。
■また冬季間の一人暮らしのお年寄りや小中高生の通学の解決策として、冬季集住※など居住環境整備に向けた取り組みを推進します。
■なお、除排雪については、国や北海道などの関係機関との連携強化や住民の協力体制づくりを進めます。

（５）美しい景観のまちづくりの推進

■暮らしに潤いをもたらし、町の貴重な資源である「山岳」、「田園」、「海洋」という豊浦特有の美しい景観を守り、つくり、整えるための、町民活動やまちの様々な主体との連携による取り組みを促進することにより、自らの町を誇れる景観づくりの促進を図ります。
■豊浦町の恵まれた自然環境を生かしながら、「洞爺湖周辺地域エコミュージアム※構想」など広域連携による景観・観光づくりを推進するとともに、シーニックバイウェイ北海道※の活動とも連結した取り組みを進めます。

（６）まち全体で取り組む環境改善活動の推進

■今まさに、地域エネルギーの積極的な活用や、地球温暖化防止に向ける CO_2 削減に取り組んでいます。
■その取り組みの発展形として、日常の身の周りから発生する生活ゴミ量の抑制、さらにそれら生活廃棄物や産業廃棄物のエネルギー化や再資源化に取り組みを進めます。

（７）自立に向ける地域内エネルギー供給システム構築の推進

■21 世紀は環境とエネルギーの時代と言われています。これからは、豊浦町も従前からの広域送配電システムの依存率の低減を図り、社会や経済の変動に強い**「自立型エネルギー供給システム構築」**が求められます。
■その取り組みとして、今進める**「豊浦町新エネルギービジョン」**を基に、全町のエネルギー収支（EPR）※と連動させた効率の良い中心市街地や各集落のあり方について、総合的に取り組み持続可能なまちづくりを進めます。

［用語解説］**冬季集住**：積雪を原因とする家屋崩壊による事故発生や、住民や行政による除雪の負担などを軽減・回避するため冬季間、地域内の複数世帯が一箇所に集って暮らすといった居住形態。
エコミュージアム：エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)を合わせた造語です。1960 年代後半フランスで提唱された、地域の自然や生活を含む環境全体を現地で保存し、それらの展示を通して地域の発展を目指そうとする取り組み。「洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想」は、平成 17 年(2005 年)に伊達市、虻田町、豊浦町、壮瞥町、洞爺村、大滝村の６市町村が主体となって策定した地域振興プロジェクト。
シーニックバイウェイ北海道：道をきっかけに地域住民と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりをめざす政策。北海道においては平成 17 年度(2005 年)から全国に先駆けて本格的に展開。
エネルギー収支（EPR）：(Energy Profit Ratio)生み出されたエネルギーに対し投入されたエネルギーの比率。